



6月号で募集した「みんなのSDGs」。9月号・11月号に続き、日本福祉大学の学生と行ったインタビューの内容を報告（第3弾）します。身近に取り組まれているSDGsを知って、みんなでSDGsに取り組んでいきましょう♪3月号の第4弾もお楽しみに！

株式会社クラタペッパー

「世界一美味しい」カンボジアのコショウを
復活させカンボジアの産業を育成し続ける企業

インタビュー：
日本福祉大学4年 伊藤優作さん



1984年に公開された映画「キリング・フィールド」を見たことがきっかけでカンボジアに興味を持った倉田さん。その後、世界が抱える経済格差に関心を持つようになったと言います。

1970年から1991年まで続いたカンボジアの内戦。その後の産業復興において、カンボジア人の衣食住のうち「食」を安定させることによって、一人ひとりの自立を促していきたいという思いから、1994年にカンボジアで現クラタペッパーの前身となる会社を起業されました。

倉田さんは、SDGsが国連で採択される前からSDGsの理念である「誰一人として取り残さない」という考えを常に貫いて行動されてきました。

カンボジアで二度と戦争を起こさないためにも、コショウ産業の復活、経済的自立などにより、人々の格差が広がらないように活動しています。それらの行動はまさに、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」に繋がっています。



株式会社
クラタペッパー
倉田浩伸さん

ナチュラルすまいる @いわくら

インタビュー：
日本福祉大学4年 坂本実穂さん



学校給食に地産地消やオーガニックを！

代表の岡田さんは自身の出産を一番のきっかけとして、子どもたちに安心・安全な物を食べてほしいと思うようになりました。

団体が立ち上がり間もない中、コロナ禍もあり、これからは「食」全般のことに取り組んでいきたいと話をされ、学校給食をより良いものに変えていくこと、地元の野菜を使った料理教室や食育、国産パンと一緒に作る会など、さまざまな活動を予定しているそうです。

地産地消の野菜を使うことで、食材の輸送に伴う化石燃料の削減や地元の農家さんへの貢献、そして新鮮な野菜を食べられるので美味しいという、さまざまなメリットがあります。

このように、一つの活動が、SDGsの様々な項目に関連していて、それを知ることにも勉強になりました。他にも、岡田さんは「SDGs de 地方創生」という講座を受講され、まちづくりなどにおいて、横のつながりの大切さを学ばれたと言っていました。

知ることによって気づくことがあり、気づいてから関心がわいてくることもいっぱいあります。「私には関係ない話」ではなく、さまざまな課題に対して“まずは知る”から、一緒に始めていきましょう！



ナチュラル
すまいる@いわくら
岡田彩乃さん

●問合先 秘書企画課企画政策グループ (☎ 38-5805)